

2011年7月4日 ITCN 夜の集会メッセージ

「2030年日本再生」

聖書箇所：マタイによる福音書15：21－28

21：それから、イエスはそこを去って、ツロとシドンの地方に立ちのかれた。

22：するとその地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」

23：しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びながらあとについて来るのです」と言ってイエスに願った。

24：しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません」と言われた。

25：しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ私をお助け下さい」と言った。

26：すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです」と言われた。

27：しかし女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」

28：そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰は立派です。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。

3つのポイント：

- (1) 積極的な心の姿勢を主は信仰と呼ばれる
- (2) 躓かない心の姿勢を主は信仰と呼ばれる
- (3) しぶとい、諦めない心の姿勢を主は信仰と呼ばれる

メッセージ骨子：

<序論> 「アメリカ人の意識調査の結果、中国は日本より期待できるパートナー」と先月日経新聞で報じられました。日本はこれからどんどん下り坂なのでしょうか？それとももう一度世界の一流国に返り咲けるのでしょうか？それを決めるのは、我々日本人が、今後どの様な心でこの困難を乗り越えていくのかによるのだと思います。宮城県の山本町は津波に襲われた町ですが、そこにボランティアに行ったミラノの内村宣教師が、現地の FM ラジオで「この町は神に愛されていますよ」とお話をしたら、翌日その町の中学校でも講演を依頼されたとのことでした。そして講演終了後「私たちには信じるものが必要です」とその校長先生がつくづく言われたそうです。ところで「信じる」ってどういうことを指すのでしょうか。

<ポイント1> 「積極的な心の姿勢」を主は「信仰」と呼ばれる

よそ者のカナン人で、女性かつやもめという、当時さげすまれた存在でしたが、彼女はそれでも気後れすることなく「お助け下さい」と叫びました。イエス様はこれを「信仰」と呼ばれました。聖書の勉強でも、奉仕でも、礼拝出席でもない。心の姿勢こそがイエス様にとっての「信仰」なのだ、ここから読み取ることができます。この積極的な姿勢なら、この「信仰」なら、私たちが持ち得るのではないのでしょうか。

<ポイント2> 「躓かない心の姿勢」を主は「信仰」と呼ばれる

失礼な態度で接するイエス様ですが、それに対して、彼女は傷ついたり、憤慨したりする様子もありません。神が私たちに理解不可能な事件をもたらし、躓きの石を置かれるというのは人生によくあることです。彼女の信仰は、それでも信頼するという心の姿勢でした。神が自分を否んでいるとしか思えないときでも、躓かない素直さ、柔軟さを持ちたいものです。躓きは高慢の表れでもあるからです。

<ポイント3> 「しぶとい、諦めない心の姿勢」を主は「信仰」と呼ばれる

神の沈黙はあります。でも神は最後に自分をあわれんでくださるという信仰。イエス様は愛のお方、助けずにおれない御性質だと徹底した信頼を寄せて、まっすぐ見続けること。この心の姿勢を主は「信仰」と呼んでくださいます。

<まとめ> 今や東西冷戦が終わり、自民の一党体制が崩れ、経済成長一本やりの時代も終わりつつありますが、急速にパラダイムシフトを求められつつある今、この大いなるシヤッフフル‘大震災’を被った日本は実は神に愛され、期待され、使命があたえられていると私は信じます。使命とはイエスキリストという希望の泉を、日本人全員が心に持って、そこから流れ出る希望を世界に流しだしていくことです。この神の意図を汲み、千載一遇のチャンスをものにしたとき、日本は本当の意味で世界のリーダーに返り咲くのではないのでしょうか。2030年復活ジャパンの中心はイエスキリストに対する信仰、つまり、遠慮しない、躓かない、諦めないという心の姿勢を保つこと、そしてそこからあふれ出る希望です。その希望は失望に終わることがないと聖書は約束しています。